



みなと

みなと 26号 2008年12月1日
兵庫県声の図書赤十字奉仕団
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5
日本赤十字社兵庫県支部内
(Tel) 078-241-9889 (Fax) 078-241-6990
代表者：片山 恵
編集者：門田真弓美

平成20年度兵庫県社会賞授賞



11月5日兵庫県公館で文化賞、科学賞、スポーツ賞、社会賞の贈呈式がありました。声の図書赤十字奉仕団は県民福祉の向上に尽くしたとして平成20年度社会賞をいただくことになり、奉仕団を代表して、片山委員長が井戸知事から賞状を受け取りました。

視覚障害者のために書籍、新聞記事などを音声化すると共に、障害者への理解を深め、積極的に研修会や交流の場を持った45年間の活動が評価された事を皆様と共に喜びたいと思います。

このことは、日赤兵庫県支部職員の方々の多大なご理解とご協力に寄るものと受け止めています。とりわけ、代々の奉仕課の皆様には大変お世話になったと感謝しております。また利用者の方々からの暖かいご意見ご感想が、団員一人ひとりの励みになり活動継続の原動力でもありましょう。これを励みにみなさまの今後のご活躍を期待いたします。

また、この喜びを、今はおられない東灘グループの皆さんにも分け与えたいです。昭和32年に市庁舎が完成した記念に神戸市に花で描く「花時計」が贈られました。また税関線が「フラワーロード」と変わった時です。日本で始めてですから大きな話題になりました。その頃、東灘区の主婦数人が目の不自由な方に何かお手伝いをと考えて試行錯誤の末やがて一本のテープが完成しました。花時計のブームが続いていた事もあり名前を花時計として「花時計一号」は誕生しました。種を蒔いた皆さんに心の中であらう、ブロンズ像も見てくださいねと言いました。 政 芙美子

第18回 交流会

2008年11月22日(土)



心の交流を

東田事務局長

リスナーの皆様交流会において頂き心から歓迎いたします。社会賞の授賞は皆様の永年に渡って地道に熱心に活動されたせいと、お喜びを申し上げます。昭和38年4月に10名から発足し多くの方の支援を頂いて今日まで続けてこられたと伺っています。赤十字のボランティアの原点とは、お互いの思いやりと支え合いによる心の交流にあると思っています。自分自身の充実と感動のため今後も継続して頂きたいと思えます。本日の交流会が実りの多いものであることを祈念しております。

明るく幸せな毎日を

小島艶子様

今年の猛暑を乗り越え、ここに元気で出会い出来た幸せをしみじみ噛み締めております。ボランティアの皆様にはお忙しいのに沢山なお心を頂き厚く御礼申し上げます。これからもいっぱい甘えさせて頂きながら、明るく幸せな毎日がくられますよう精進したく存じます。

信頼のある仲間として

片山委員長

今年も皆様と交わりの時を持つことが出来、とてもうれしく思います。デイジー等さまざまな活動を皆様の協力を得て、熱心に取り組んできたおかげで今年兵庫県の社会賞を頂くことが出来ました。私たち団員は皆様に信頼して頂ける仲間であり続けたいと願っております。今日はごゆっくりお過ごし下さい。

第18回交流会にて

開会の挨拶の後、司会の河合和子さん（こすもす）がリスナーのお名前をお呼びし次々元気な声を頂きました。昼食は「たこ飯」。品数も多くボリュームのある美味しいお弁当でした。1時から女声コーラスの美しい歌声が会場に響き渡りました。身体にフィットした黒い衣装の10人の歌姫達は様々にアレンジしながらこの日の喜びを表現されていました。「上を向いて歩こう」では手話を教えて頂き皆さんの手が動き回る一場面もありました。

華やかな歌声の余韻が残る中、あかりの会の朗読が始まりました。NHKハート展より数点紹介されました。なかでも視覚障害者の詩「爪切りが怖いよ。だからお母さん長生きしてね」「そしたらお母さん妖怪ばあになるよ」「それでもいいよ」・・・会場にどよめきが起きました。

次はこすもすグループの朗読劇「伊勢屋の黒助」黒猫が小判を運んでくる話に笑いもおこり、リスナーの皆さんが熱心に聴いて下さっている様子に心打たれました。皆さんが楽しみにしている歓談の時間は予定より短くなりましたが、様々ところで話の輪ができていました。

盲導犬は3頭、賑やかな会場にしながら温和しく付き添っている素晴らしいパートナーです。

お別れの時間がとうとう来ました。「今日の日はさようなら」の大合唱は『名残惜しいけれど今日は楽しかったね、また来年元気で会いましょう』と気持ちが一つになったように思いました。再会をお約束して皆様今年も温もりをありがとうございました。 書記 門田真弓美



第18回交流会を終えて

秋晴れの日、恒例の交流会を開催し、大きなトラブルもなく無事終える事ができました。

当日はリスナー60名、同行者39名、盲導犬3頭、招待客1名、支部から3名、団員75名、合計178名の参加で盛会となりました。

イベントは華やかな女声コーラスグループに来て頂き、ダンスや手話を交えての歌を聞き全員で歌ったりと楽しい時を過ごしました。

8月から実行委員会を開き準備して参りましたが、反省すべき点も多くあり、これらを次回へ申し送り、より充実した交流会にすべく生かさせて頂ければと思っております。

実行委員及び、団員の皆様のご協力に改めてお礼申し上げます。また支部の方々には何かとお願いすること多かったのですが、快く引き受けて下さり、心より感謝申し上げます。

交流会実行委員長 中原昌代

第18回交流会会計報告

収 入		支 出	
日赤交流会助成金	290,000	弁当@900×200個	180,000
		お茶24本×10ケース	22,176
		お菓子	55,650
会費@500×99名 リスナー60名 同行者 39名	49,500	みかん	10,000
		チャータバス 2台 @10,000×4 (往復)	40,000
残り弁当販売	4,200	イベント出演者交通費	20,000
		振込手数料	未
小 計	343,700	小 計	327,826
		12月3日現在残高	15,874

日赤支部・青少年プログラム等活動記録

- 8/18 赤十字親子探検隊
 9/05 学校講習：点字 米田西小学校 助け合おうボランティア委員会の児童 18名
 9/06 ボランティアリーダーシップ研修会
 9/07 第2回交流会実行委員会
 9/13 「World First Aid Day」キャンペーンイベント 明石駅会場・須磨パティオ会場
 10/05 第3回交流会実行委員会 ・ 運営委員会
 10/16 学校講習会：点字 米田小 4年生 184名
 10/22 学校講習会：点字&ガイドヘルプ 米田西小 5年生 95名
 10/23 学校講習会：点字&ガイドヘルプ 花園小 4年生 77名
 10/28 学校講習会：ガイドヘルプ 兵庫教育大付属中 1年生 118名
 10/28 献血功労感謝の集い (於) 兵庫県公館
 11/05 「社会賞」受賞式 (於) 兵庫県公館
 11/09 青少年赤十字賛助奉仕団秋季研修会
 11/12 学校講習：点字 伊保小
 11/13 学校講習：点字 曾根小
 11/16 交流会実行委員会
 11/18 学校講習：点字
 11/22 第18回交流会
 11/27 赤十字有功章等贈呈式 (於) 兵庫県公館
 11/30 NHK海外たすけあい JR三宮
 12/07 運営委員会
 12/13 NHK海外たすけあい JR明石
 12/20 NHK海外たすけあい JR神戸

病院朗読会 神戸赤十字病院 (4階～6階デイ・ルーム)

日時： 毎月第3火曜日 午後3時～3時30分

月 日	フロアー	グループ名	朗 読 図 書
6月17日	5F	あかりの会	・北陸の昔話より さるの生き胆 ・青森の昔話より ねぶた祭りの由来 ・JOMDの童話集より たった一度のホームラン他3編
7月15日	6F	あけぼのG	・森繁久弥著 私の履歴書より「さすらいの唄」 ・金子みすず童謡集 「わたしと小鳥とすず」より
8月19日	4F	神戸YWCA	・萩本欽一 「私の幸福論」ずっと僕は幸せだった ・伊丹仁朗 「笑いの健康学」 ・土佐の秋 ・西日光耕三寺 ・永六輔 「職人」
9月16日	6F	ことばの花束	・里みちこ 感字在菩薩 ・工藤直子 夕日の中を走るライオン ・金子みすず詩集より ・近藤勝重 健康川柳 ・中矢元 いいことしたら返ってくる
10月21日	5F	こすもす	・読売新聞日曜版より 我が家のあたしんち ・ 〃 夕刊より 猪名の笹原風吹げ ・日本の昔話 瓜子姫 ・笑話コレクションより
11月18日		青年	・負け兎 斉藤隆介 ・父のこと母のこと ・早口ことば ・イントロクイズ
12月16日		そよかぜ	

点字班の活動から

新阜義弘さんのお話を聞いて

点字班は8月の例会において、灘区にある養護盲人ホーム(千山荘)で生活相談員をされている新阜義弘さんにお越しいただき、視覚障害者の現状や点字についてのお話を伺いました。

新阜さんは、緑内障のため二十歳で中途失明されましたが、日本福祉大学大学院を卒業して鍼灸の免許も取り、その後は長く老人福祉の仕事に携わってこられました。現在も、神戸アイライト協会の会長として視覚障害者のための活動を続けておられ、毎月第4木曜に東部在宅障害者センターで‘点訳みるめの会’を開き、点字も教えておられます。

点字は視覚障害の方々にとって情報を得るための手段の一つですが、新阜さんのお話によると、全国に視覚障害者手帳を持っている約30万人のうち、2/3が65歳以上の人だそうで そのうち点字をする人は約3万人、点字を読み書きできる人は、さらにその1/2しかいないとのことでした。

実際に点字が必要な障害者の方にとっても、点字のボランティアにとっても、点字を覚えるためには根気がいり、やはり続けるためには努力が必要といえるのでしょう。

視覚障害者の方々は、一口に目が不自由といっても弱視から全盲まで見え方はそれぞれ違います。中途失明で障害になった人は、初めは障害を受け入れることができずに心を閉ざすことも多いといいます。そういう人達が、障害を受け入れたといえるのは、‘杖を持って歩く’ことができた段階なのだということでした。

新阜さんは、「ボランティアをする側は、音訳や点訳をするときも、相手が視覚障害というハンディを持っていることに配慮し、相手の気持ちを理解する努力をしてほしい。ボランティアが一方向的に援助を与えるというのではなく、障害者の方々とお互いに交流してわかり合うのが大切だ。ボランティアの人たちは視野を広く持った活動をしてほしい。」というお話をされました。

毎年の交流会を楽しみに来て下さるようなリスナーさんには前向きな方が多く、私たちのほうが教えられることも多いですが、これからは、新阜さんのお話のように、広い意味でのサポートができるボランティアを心掛け努力をしたいものですね。ボランティアをする上での心構えを改めて気づかせていただいたように思いました。

本村和代



デイジー班の活動から

6月から『日赤声のアルバム』発行

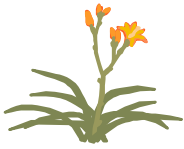
日進月歩の世の中です。デジタル化の波も止めようもありません。今年の6月から、念願であったデイジー図書の発送を始め、いよいよ日赤兵庫声の図書奉仕団も、デイジー発行の仲間に入ることが出来ました。リスナーさんもあつという間に100名近くに増え、どんなに待ち望んでおられたかがわかります。

パソコンやデイジー機器の調達に、快く応えて下さった日赤兵庫県支部の心強い後押しと、リスナーさんからのたくさんの暖かい励ましのお陰で、私達も心をひとつにして、頑張ることが出来ました。感謝しています。

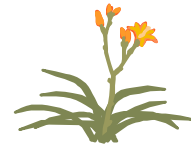
さて実のところ、私は今、古巣に戻ったような喜びをしみじみ噛みしめています。小・中学校がJRC(青少年赤十字)に加入していたらしく、お寺で合宿があり、赤十字の生みの親であるアンリー・ジュナンの幻燈を観ながら、博愛精神や奉仕の心について、先生から教わりました。また県大会や全国大会にも参加させていただき、友達も広がりました。良い思い出です。

そして姿かたちはすっかり変わってしまいましたが、気持ちだけは変わることなく、今ここにこうして、微力ながら日赤ボランティアの末席に加えていただいています。感無量です。これからもどうぞよろしくお願い致します。

水口克子



花 時 計



6月号 (神戸YWCA)

- ・サクソフォン奏者 井上麻子さんインタビュー
- ・佐藤愛子著 今は昔のこんなことから朗読劇「鍛冶屋」
- ・舟橋敬子さんインタビュー
- ・デージー図書発行のお知らせ

- ・朗読劇面白かった。1番と3番の方の言葉がきれいだった。参考にしたい。 宅和節子さん
- ・サクソフォン奏者のインタビューを聴いて以前サクソフォン奏者とジョイント演奏したのを思い出しかった 松本民雄さん
- ・サクソフォン大変良かった。 香山良樹さん
- ・今は昔のは孫達に聴かせたい 島貫信子さんより

- ・前川さんのお話おっしゃる通りです。外国は障害者の理解がすごいんです、中国で車が多かったのを思い出した。 鈴木美智子さん
- ・今回は勇気づけられる話でした。老人ホームで演奏活動しています、私の来るのを心待ちしているので頑張って続けたい。

松本民雄さんより

7月号 (ともしび)

- ・インタビュー 盲導犬グレースとともに講演活動をしている前川裕美さん
- ・杉本節子著 「京町屋の四季」より 祇園祭
- ・壇ふみ著 「どうもいたしません」より ハオパー、 やっぱりケータイは不思議

8月号 (こすもす)

- ・源氏物語ゆかりの場所を訪ねて
- ・藤沢周平 「朝顔」
- ・野の花だより365日より「宵待草」
- ・河合和子の旅便り スペイン旅行
- ・ビール冷え冷えコノヤロモンダイ
- ・暮らしの手帖すてきなあなたにより「うちの季節」

- ・スペイン、夢のある街のようですね日本と変わらない花が咲くとのこと素晴らしいと思います。 鈴木美智子さん
- 松本民雄さん、島貫信子さんより

- ・今回の牧場は視覚障害者も見学できますか、搾乳ロボットが使われている時の音を聞いてみたい。 松本民雄さん
- ・赤毛のアンは懐かしく今になってもっと知りたいと思ったこうして手紙を書くのも楽しみの一つです。 島貫信子さん
- ・牧場の方々の成功する苦労は並大抵ではなかった。百歳の方々は人の喜びを自分の喜びにしている。一日でも丸く過ごす努力をしたい。 鈴木美智子さん 香山良樹さんより

9月号 (ことばの花束)

- ・弓削牧場を訪ねて
- ・百歳万歳
- ・ペギー葉山さんの魅力
- ・赤毛のアンを島を訪ねて

10月号 (あかりの会)

- ・「石見銀山」に行ってきました
- ・しあわせの村便り「英語点字クラブ」
- ・ウイリー・モリス作「マイ・ドッグ・スキップ」より戦時中のこと

- ・石見銀山、時代劇に出てきますね。面白い話でした。 香山良樹さん
- ・石見銀山は高校の修学旅行を思い出した。佐渡の金山で坑道に入り中は寒かった。松本民雄さんより

11月号 (はあもにい)

- ・インタビュー 料理研究家の今川玲子さん
- ・朗読 かわいまり著 「迷宮レストラン」
- ・スプラッシュ神戸に乗って
- ・気になる日本語

